

成田市文化財審議委員会会議概要

1. 開催日時

令和8年3月16日(月) 午前10時から午前11時30分

2. 開催場所

成田市花崎町760番地 成田市役所2階 202会議室

3. 出席者

(委員)木村修委員長、濱島正士副委員長、高木博彦委員、植野英夫委員、榎美香委員、深田富佐夫委員

(事務局)日暮教育長、藤崎参事、神崎生涯学習課長、松崎係長、朝倉主査、小泉副主査、大場主任主事

4. 議事

- (1) 市指定文化財・赤荻の大エノキの指定解除について(諮問)
- (2) 埋蔵文化財の照会状況、発掘調査について(令和7年9月～令和8年2月)(報告)
- (3) 市民から要望があった国登録有形文化財候補について(報告)
- (4) 文化財保存活用地域計画について(報告)

5. 議事(要旨)

- (1) 市指定文化財・赤荻の大エノキの指定解除について
赤荻の大エノキに係る指定解除についての諮問及び質疑応答を次のとおり行った。

<事務局説明>

赤荻の大エノキについては、樹木全体が枯死し、倒木による人的被害の恐れがあったため、管理者である空港対策課と地域の方で協議のうえ、令和7年9月18日付けで現状変更届が提出され、伐採が計画されている旨を第1回の審議委員会において報告した。その後、10月30日に伐採され、11月27日付けで指定文化財現状変更完了報告の提出がされている。

<質疑応答>

植野委員:これからひこばえが出てくるなどの可能性があるため、切株を残したとの理解でよろしいか。

事務局:伐採業務を受注した業者からは、ひこばえが出てくる可能性はほとんどないと伺っている。また、切株を残している理由としては、樹木に補強材として金属性のものが使われた形跡があり、根元部分にチェーンソーを入れると火花が散るなど危険であるためである。

- (2) 埋蔵文化財の照会状況、発掘調査について(令和7年9月～令和8年2月)

事業にあたり照会があった周知の埋蔵文化財包蔵地の有無、その取扱い状況、実施した発掘調査について、報告及び質疑応答を次のとおり行った。

<事務局説明>

照会された件数は全34件で、埋蔵文化財の包蔵地に含まれていたのは19件だった。事業ごとの内訳について、例年どおり個人住宅・集合住宅に伴う照会が多くなっている。

成田市教育委員会による発掘調査は8件。

郷部南台遺跡では、確認調査を令和7年8月28日から令和7年9月17日、本調査を令和7年10月2日から令和7年10月28日の期間で実施した。出土した遺構は縄文時代の土坑が50基、中・近世の土坑が7基検出された。また、出土遺物は縄文土器が出ているが、全て小破片となっている。

中里教ヶ峰遺跡では、確認調査を令和7年9月17日に実施した。事業面積499㎡に対して、2m×5mのトレンチを6カ所開けているが、遺構は確認できなかった。遺物については、奈良・平安時代の土師器および須恵器の破片が出土している。

花立台Ⅰ遺跡 新林大富Ⅰ遺跡では、確認調査を令和7年11月5日に実施した。事業面積272.58㎡に対して、トレンチを2カ所設定し28㎡を掘削しましたが、遺構・遺物ともに出土しなかった。

宗吾二丁目遺跡では、確認調査を令和7年11月17日から令和7年11月25日、本調査を令和7年11月26日から令和7年12月10日の期間で実施した。遺構は、古墳の周溝が1条検出されている。令和4年から令和5年にかけて周辺で行われた調査では、今回の調査と同一の古墳の周溝が確認されており、その続きである。周溝は鋭角に曲がるように検出しており、以前の周溝の検出状況と合わせて推測するに、前方後円墳だと考えられる。周溝は深いところで1.3m、浅いところで0.9mある。上端は広いところで4m、狭いところで2m、下端は広いところで1.6m、狭いところで0.5m程度の規模の周溝であった。出土遺物は古墳時代の土師器・須恵器、埴輪が出土している。埴輪については、円筒埴輪の破片のほか、人物埴輪の腕の部分と思われる破片が出土している。

名古屋貝塚・名古屋遺跡では、確認調査を令和8年1月13日に実施した。事業面積177.38㎡に対して、上層20㎡の調査を行っている。遺構は確認されなかったが、遺物は縄文土器の破片が出土している。

宗吾西鷲山遺跡では、確認調査を令和8年2月2日に実施した。事業面積354.62㎡に対して、上層40㎡の調査を行っている。遺構は確認されなかったが、遺物は縄文土器の破片が出土している。

成井猪穴台遺跡では、確認調査を令和8年2月5日から令和8年2月6日、本調査を令和8年2月12日から令和8年3月6日の期間で実施した。遺構は古墳時代の住居跡が1軒確認されている。規模としては、縦横6m程度の規模のもので深さは約0.5mとなっている。家をそのまま燃やして廃棄したようで、遺構としての残りは非常に良かった。遺物についても、カマドの西側からほぼ完形の高坏、東側からはほぼ完形の甕が出土している。また、カマドの真向かいからはほぼ完形の坏が出ている。全体的に屋根材等の住居構築材と推定される炭化物が一面に出てくる状況だった。

青山館内遺跡では、確認調査を令和8年2月9日に実施した。事業面積358.45㎡に対して、上層40㎡の調査を行っている。遺構・遺物ともに確認されなかった。

千葉県教育振興財団が実施した発掘調査は4件。成田国際空港の機能拡張に伴う調査である。

小泉坊向遺跡(8)では、確認調査を令和7年10月9日から令和7年10月31日に実施した。事業面積2,250㎡に対して、上層255㎡、下層108㎡の調査を行っている。遺構は、石器出土地点2カ所、遺物は、旧石器時代の石器が出土している。

小泉仲峯遺跡(5)では、確認調査を令和7年10月14日から令和7年12月1日に実施した。事業面積8,126㎡に対して、上層6,450㎡、下層168㎡の調査を行っている。遺構は、検出されなかった。遺物は、縄文時代土器および石器が出土している。

小泉坊向遺跡(9)では、確認調査を令和7年11月4日から令和7年11月14日に実施した。事業面積11,728㎡に対して、上層890㎡、下層60㎡の調査を行っている。遺構・遺物ともに検出されなかつた。

った。

小泉坊向遺跡(10)では、確認調査を令和7年12月3日から令和8年1月7日に実施した。事業面積3,746㎡に対して、上層380㎡、下層80㎡の調査を行っている。遺構は、検出されなかった。遺物は、縄文土器が出土している。

公益財団法人印旛・柏文化財センターおよび民間調査組織による発掘調査は、該当がなかった。

<質疑応答>

深田委員:土木工事の目的で掘削や盛土といった土地改良を行う場合、届出をすることとなっているが、届出がされないケースはあるのか。

事務局:そういった場合は、業者に連絡して手続きを案内し、調査等の対応を行っている。

榎委員:成田空港の開発地は今回あまり入っていないように見受けられるが、だいたい発掘調査は終わったとの理解でよろしいか。

事務局:成田空港の関係は、千葉県の管轄となっており、千葉県と空港会社によって進められているが、第2の開港プロジェクト全体に対する進捗率は本市では把握していない。

(3) 市民から要望があった国登録有形文化財候補について

市民から要望があった国登録有形文化財候補について、報告及び質疑応答を次のとおり行った。

<事務局説明>

国の登録有形文化財については、登録の基準として、原則建設後50年を経過したもの。加えて、①国土の歴史的景観に寄与しているもの、②造形の規範となっているもの、③再現することが容易でないもの、の3つのうち、いずれかを満たすことが登録の要件となる。成田市では、川豊本店店舗や一粒丸三橋薬局店舗などのほか、直近だと、旧下総御料牧場(三里塚記念公園)貴賓館、防空壕が登録されている。要望があった建物は1984年に建てられている建物で、築42年である。原則である築50年に満たないこと、また、登録基準の3点に該当しないため、事務局では登録の候補にはならないと考えているが、委員の皆様からご意見を頂戴したい。

<質疑応答>

植野委員:文化財登録相談用の資料は事務局で作成したものか。

事務局:要望された方が持ってきた資料である。

木村委員長:要望のあった方は基準の50年を把握しているのか。

事務局:文化庁の案内を渡すとともに、建設後50年の原則があり、そのうえで3つの要件のいずれかに属しているものと説明している。

植野委員:県の登録基準は50年が40年にハードルが下がったりするのか。県も50年の縛りがあるのか。

事務局:国と同じで県も50年である。

植野委員:登録要件の「国土の歴史的景観に寄与しているもの」について、著名な建築家が設計していることは、要件の要素となる。

植野委員:今も営業されていて、活用できるのか。登録文化財は活用が何より。

事務局:現在も営業していて活用可能である。

木村委員長:築 50 年に達していないこと、さらに3つの要件にも該当するものがないため、登録の候補とすることについては見送ることとする。

委員一同:異議なし。

(4) 文化財保存活用地域計画について

文化財保存活用地域計画の策定にあたって実施しているアンケート調査について、報告及び質疑応答等を次のとおり行った。

<事務局説明>

文化財保存活用地域計画の策定にあたって、住民の方から様々な意見を聴取していくことが推奨されている。若年層であり将来の担い手である中学生・義務教育学校および高等学校に通う方を対象に地域の歴史や文化財に対する認知度、愛着、活用への意向などを把握するためのアンケートを実施したので報告する。

調査方法はWEBでの回答とし、中学2年生向けは2月中で終了しており、配布数約 1200 件に対し、回答数は 755 件、約 63%の割合となっている。高校1・2年生向けは2月 12 日から3月 19 日で、まだ調査を実施中のため、途中の段階での取りまとめとなる。配布数 2312 件に対し、3月6日時点で 782 件の回答が来ている。割合として約 33%となっている。

設問は全部で 12 問ある。取りまとめの結果は、中学生と高校生を合わせたものとして資料に掲載している。

Q1は、どちらに住んでいるか問うもの。市外との回答が一番多くなっているが、これは高校生の回答である。中学生には市外との回答はなかったため、市内の各地区となる。概ね人口が多いところは回答が多くなっている。

Q2は、あなたは歴史や文化財に興味はありますか、という設問になっている。文化財の関心度を計るものになっている。興味が「ある」、「どちらかといえばある」を足すと約 50%、「どちらかといえばない」、「ない」を足しても約 50%となった。興味がある、興味がないが半々という回答結果になっている。

Q3は、Q2で「ある」、「どちらかといえばある」と答えた方にお尋ねします。どのような文化財に興味・関心がありますか、という設問である。選択肢としては全部で 14 個。回答が一番多いものは、「お寺や神社などの建物」が480 件、続いて、「古い町なみ」が408 件、「地域のお祭りなどの伝統行事」が359 件、「滝や里山などのきれいな景色」が347 件となっている。こちらは成田市の文化財に限定するものではなく、どういったものに幅広く興味があるかの質問になっている。

Q4は、Q2で「どちらかといえばない」、「ない」と答えた方にお尋ねします。あなたが文化財に興味・関心がないのはなぜですか、という設問である。多い順に、「生活に関係がない」、「身近でない」、「むずかしい、わかりにくい」が約 300 件ずつ約 24%程度の回答があり、「歴史が好きでない」は 197 件、約 16%であった。歴史が嫌いというより、自分の身近に感じられていないことが興味ない理由であると考えられる結果であった。

Q5は、自由記述欄であるため、最後に紹介する。

Q6は、もし外国の人や市外の友達に「成田ってどんな街？」と聞かれたら、紹介したい文化財は何ですか、という設問である。多い順に、「成田山新勝寺や表参道の街なみ」、「成田祇園祭などのお祭り」、「うなぎ・羊羹などの食文化」で、それぞれ 20%から 40%程度の割合であった。この内容は、後ほど説

明するQ5・Q12の自由記述に繋がってくる。

Q7は、「古い建物」や「昔からの風景」がなくなり、「新しいビル」や「駐車場」になったらどう思いますか、という設問である。文化財の保存についての意向を聞くもの。多い順に、「なくなるのは寂しい」が517件、「成田らしい魅力や自然がなくなるのはいやなので、残してほしい」が477件で、それぞれ約30%の割合となっている。続いて、「街が便利できれいになるなら、それで良い」が273件で約18%。開発は必要だが、文化財も守りたいという思考があると分析した。

Q8は、身近にある古い建物(古民家、使わなくなった蔵など)を「使う」としたら、何ができたら嬉しいですか、という設問である。文化財の活用への意向を確認する趣旨で設定した。多い順に、「カフェやレストラン」が1029件で37%、「友達と話したりできるフリースペース」が615件で約22%となっている。何かしらの活用を図りたいとの意見が84%程度で活用に対する意向が高いと分析している。

Q9は、次の講座やイベントの中であなたが参加したいと思うものはありますか、という設問である。多い順に、「地域の祭りや伝統行事」が845件で約40%を占める。続いて、「文化財をめぐるウォーキングやツアー」が268件で約13%となっており、体を動かすイベントへの志向が高いと分析している。

Q10は、文化財を残すために大事だと思うことはなんですか、という設問である。多い順に、「歴史や文化財に親しむ機会の充実」が774件で約17%、続いて、「伝統行事などの保存や記録」が629件で約14%、「歴史や文化財を活用したまちづくり、観光活用」が587件で約13%となっている。歴史を身近に感じることを大事との志向が高いと分析している。

Q11は、文化財を残すためにあなたが協力できると思うことはなんですか、という設問である。文化財の継承への参画に対する意識を図る趣旨となる。多い順に、「地域の祭りや伝統行事などへの参加」が799件で約31%、「文化財に関する講座やイベントなどへの参加」が483件で約19%、「文化財を守る活動への寄付」が330件で約13%となっている。イベント関係に対する志向が高い傾向にあると分析している。

Q5とQ12は似ている部分があるので、まとめている。

Q5は、「成田の歴史や文化財」と聞いて、イメージするものは何ですか、という設問で自由記述である。

Q12は、あなたが未来に伝えたいと思う成田市の文化財をおしえてください(古い建物、遺跡、昔話などだけではなく、成田市らしい食べ物や景色、伝説、人物、キーワードなどでも構いません)、という設問で自由記述である。Q5はイメージ、Q12は伝えたいものや残したいものを問うものである。主なものとそれ以外のものでざっくりとまとめたものであるが、Q5もQ12どちらも主なものとして、「成田山新勝寺」に関するものが圧倒的で認知度が高かった。成田山といえば、お寺を中心に祭礼行事である祇園祭、門前町の景観としての表参道、そこでの食文化としてのうなぎや羊羹、さつまいもに広がっていく印象がある。これが成田らしきとして中高生の方がイメージしているものと分析している。一方で、それ以外の地域にあたる下総や大栄、三里塚に関するキーワードは少なかった。成田空港の記載はあるが、その前身になる宮内庁下総御料牧場の記載は少なかった。また、龍正院、大慈恩寺、獅子舞神楽の認知度は高くはないとの印象を受けた。

今回、こういったアンケートを実施したため、意見を参考に成田市文化財保存活用地域計画を作っていきたい。今後の予定は、市政モニター制度を活用したアンケート調査を5月に実施する予定である。

<質疑応答・意見>

深田委員：中学生は調査期間が終わっているとのことだが、高校は3月19日までと伺った。出来ればもう一度学校に連絡し、アンケートについて再周知してもらった方が良い。

深田委員:Q3で興味あるものとして、「古い町なみ」や「お寺や神社などの建物」が多い。自分が金沢を訪れたときに、外国人観光客が多く見受けられた。その人たちが金沢の次にどこに行くかという、白川郷に行くことに気が付いた。やはり外国人の方は日本らしさ、古い町なみ、お寺や神社に惹き付けられると思った。これを見ると中高生も近いものがあると感じており、アピールしていった方が良いのは、「古くから地域に伝わる演劇(歌舞伎など)や音楽」、「地域のお祭りなど伝統行事」、「昔の農業や漁業などの道具」といった本来あまり目につかない、中高生たちが結びつかないものにアピールする方策を考えていった方が良い。

榎委員:中学2年生と高校1・2年生という若い方々にアンケートを取って、Q5やQ12のような具体的な文化財がこれだけあがってきたことに驚いた。このようなアンケートを取ることで、学生が文化財に対する意識・関心を持つきっかけになるし、これ自体が活性の一つの動きではないかと感心した。ぜひ1回だけでなく何か折を見て、あるいは小学生を対象としても良いと思うが、子どもに対してどういうイメージをするかアンケートを取るのも一つの方策であると思った。また、伊能歌舞伎がアンケートの回答に含まれているが、今の伝承状況はどのようになっているのか。

事務局:伊能歌舞伎保存会が年1回の定期公演を実施している。活動しているのは70~80代が中心で、高齢化が進んでいる。その方々が、大栄みらい学園のお子さんに演技を教えたり、定期公演の際に、こども歌舞伎という形で毎年公演を行っている。

高木委員:このアンケートの中に博物館が出てこない。下総地区に資料館はあるが、成田市とすればもう少しきちんとした博物館がほしい。最近、博物館は儲けないとけないという旨のことを国が言い出しているが、改めて今の成田市にふさわしい総合的な歴史系の博物館を私としても推進してほしい。

生涯学習課長:文化財の調査・整理をして、その成果を見ていただくということで出土したものを展示する博物館ということだと思うが、今回の文化財保存活用地域計画は、アンケートで出た課題や市で出来ていないことなど課題を含めた計画として取りまとめようと考えている。地域への愛着や文化財保存、それから地域振興を合わせた計画にしていこうと考えているため、いただいた意見を参考に取りまとめていきたい。

植野委員:Q2をみると、約半分の子どもたちは、文化財に全く関心がない。Q4の興味・関心がない理由をみると、わかりにくいやむずかしいが半分以上を占める。これは文化財の価値や魅力が若い人たちに全然伝わっていないことを如実に説明する資料だと思うので、文化財審議委員会の一員として、この計画の策定の土台にしなごらごらどん情報発信が必要だと思う。パンフレットを作ったから見てくださるのではなく、何でこういった文化財がこの土地に伝わったのかそういった物語を作っていくのがこの審議会の役割である。他の市町村でも同様のアンケートを行っており、同じような傾向が見受けられるのであれば、教育全体の課題になるのではないかと。

深田委員:植野委員の発言に関連して、私が勤務している高校では社会科研究部という部活があり、10年ほど前はなかなか機能していなかったが、近年だいぶ機能するようになってきた。現在は部員が7~8名程度いる状況。それを機に、成田市文化財保護協会から打診を受けて、保護協会の団体会員となった。保護協会が実施する文化財パトロールという事業に過去2回参加しており、1回目のときに、学校の裏にある小野派一刀流開祖のお墓を訪れた。それを

見た生徒が「こんな身近なところに文化財があるのか」「全く知らなかった」と言っていた。身近にある文化財に触れたことによって、かなり意識も変わった。また、先日千葉県文化財課主催の古墳に関わるイベントにて発表を求められ、文化財パトロールの様子について報告した。高校生は、触れるきっかけさえあれば、すぐ火がつくとイベントに出た際にわかった。熱心に頑張っている高校生がいる。木村委員長が元会長をされていた、千葉県の高等学校教育研究会歴史部会が主催している生徒の発表大会があり、八千代東高校の生徒が佐倉の麻賀多神社のお祭りを2年連続で発表していた。その様子を伺うと、祭りには若い世代が積極的に参加しているということで、麻賀多神社の本家本元は成田のはずなので、負けてはいけないと思ったわけだが、そういう知る機会があればすぐ火がつくと思うので、機会を積極的に設けていければ。

高木委員：吾妻小学校には敷地に古墳が残っているので、何年も前に子どもたちに遺跡の話をする機会があったが、現在学校教育と社会教育に何か溝があるような気がする。学校と連携してもらえれば、ニュータウンの遺跡について話をすることはできる。

木村委員長：成田は国際文化都市を標榜しているが、子どもたちが本当の意味でグローバル人材として国際的な人物として育っていくためには、英会話はもちろん必要で、グローバル人材という英会話が出来れば良いという意識が学校の中にも往々にして起こりがちである。本当にグローバルな人間というのは、自分たちの住んでいる郷土なり国なりについて、外国の方にある程度説明できる知識を持っていることが大事であり、そうでなければ本当の国際人とはいえないと世界的にも言われている。しかしながら日本はその辺が弱いという指摘が従前からある。そういった中で、成田が先頭を切って人材を育てていくためには、ここに行けば成田の今までの歴史が一目でわかる、という博物館が必要であるし、それから学校教育の中で、予算措置をしていただきながら、子どもたちが理解を深められるような教育を進めていただくことが非常に大事だと思う。千葉県内では、最近千葉市は千葉氏を中心としてアイデンティティ形成をしていて、市をあげて力を入れている。やはり成田市も負けずにこういう郷土愛を高めた人材を育てていくための措置をとっていただきたい。

濱島副委員長：せっかく子どもたちがこれだけ文化財に関心を持っているのに、Q9で、「文化財を活用した学校教育における郷土史学習」が7%、これが情けないと思う。もっと学校教育で文化財なり日本の歴史を活かすということをやっていただきたい。

6. 傍聴人

2人

7. 次回開催日時(予定)

令和8年10月